

第1回秋田市総合計画・地方創生懇話会 意見対応一覧表

NO.	意見内容	現状・対応案																																										
1	若者に来てほしい、留まってほしいのであれば、冬の3ヶ月間だけでも小中学生のバス代を無料にするのが効果的だと思う。	<p>通学距離・身体的状況により、児童生徒が徒歩での通学が困難と認められる場合は遠距離通学費補助金として支援しております。</p> <p>小中学生のバスの無料化は、子育て世帯の経済的負担軽減につながるものと考えられますが、利用者のニーズや費用対効果、子育て支援策における優先順位などを考慮する必要がありますと考えております。</p>																																										
2	クマの被害が起きると多額の被害が生じると思われるが、それに比べて対策費があまりに少ないので、秋田市内でクマを駆除した場合は1頭あたり5万円、あるいは市街地なら10万円といった慰労金を追加で出した方が費用対効果は高い。	<p>(現状)</p> <p>県による慰労金の支出は、R5年度の単年のみであり、現在は行っておらず、本市において、慰労金の支出による対策は考えておりません。</p> <p>【県の慰労金支出状況】 (単位:頭、人、千円)</p> <table border="1" data-bbox="767 819 1378 925"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">捕獲</th> <th colspan="2">従事者</th> <th rowspan="2">支給事務費</th> <th rowspan="2">合計金額</th> </tr> <tr> <th>頭数</th> <th>慰労金</th> <th>人数</th> <th>慰労金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5</td> <td>2,263</td> <td>15,841</td> <td>1,411</td> <td>2,822</td> <td>685</td> <td>19,348</td> </tr> </tbody> </table> <p>【市の被害状況、クマ捕獲等】</p> <table border="1" data-bbox="767 987 1334 1167"> <thead> <tr> <th>秋田市</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人身被害(人)</td> <td>—</td> <td>15</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>建物での居座り(件)</td> <td>—</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>農作物被害(千円)</td> <td>740</td> <td>18,170</td> <td>※ 300</td> </tr> <tr> <td>対策費(千円)</td> <td>8,573</td> <td>12,406</td> <td>10,131</td> </tr> <tr> <td>捕獲頭数(頭)</td> <td>29</td> <td>171</td> <td>33</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ R6被害額は、未確定</p> <p>(対応案)</p> <p>駆除も重要な対策のひとつですが、クマの出没は、クマの数だけではコントロールできないことから、出没抑制対策と捕獲の両輪で対策を進めております。</p> <p>現状の対策に加え、人の生活圏へのクマの出没を抑制する対策として、人とクマとの間に適切な距離がとられ、棲み分けをするゾーニング管理を行い、そのゾーンで実施する対策について県と協議し、猟友会と連携を図ってまいります。</p>		捕獲		従事者		支給事務費	合計金額	頭数	慰労金	人数	慰労金	R5	2,263	15,841	1,411	2,822	685	19,348	秋田市	R4	R5	R6	人身被害(人)	—	15	1	建物での居座り(件)	—	1	2	農作物被害(千円)	740	18,170	※ 300	対策費(千円)	8,573	12,406	10,131	捕獲頭数(頭)	29	171	33
	捕獲			従事者		支給事務費	合計金額																																					
	頭数	慰労金	人数	慰労金																																								
R5	2,263	15,841	1,411	2,822	685	19,348																																						
秋田市	R4	R5	R6																																									
人身被害(人)	—	15	1																																									
建物での居座り(件)	—	1	2																																									
農作物被害(千円)	740	18,170	※ 300																																									
対策費(千円)	8,573	12,406	10,131																																									
捕獲頭数(頭)	29	171	33																																									
3	若手、大学生、高校生の就職という選択肢の中に、秋田県内の企業をどれだけ差し込めるか、情報発信を強化できるといい。	<p>本市では、高校生を対象とした就職支援講座、高校教諭を対象とした職場見学会、大学生等を対象とした企業研究会を開催するほか、就活ガイドブックの発行を通して、地元就職の促進等に取り組んでおります。また、企業の採用活動やインターンシップの取組などに補助し、市内企業の情報発信を支援しているところです。今後は学生団体と連携した取組を強化するなど、地元企業の魅力を発信するために効果的な手法を検討してまいります。</p>																																										
4	ふるさと納税をもっと強化してほしい。ここ1、2年はティッシュペーパー等の日用品で増えたと思うが、偶発的だと思うので、もっと戦略的にやったら増えるのではないか。	<p>紙製品の主力頼みになっていることは課題として認識しております。今後も安定的・継続的に寄附を伸ばしていくため、新たな返礼品提供事業者の掘り起こしや戦略的な取組の強化が必要と考えており、寄附者のニーズに沿った商品を提供できるような仕組み作りを研究・検討してまいります。</p>																																										

NO.	意見内容	現状・対応案
5	起業を増やしていかないと秋田の産業は活性化しない。むしろずっと衰退していくと思うので、起業の部分についてもアプローチが必要。	本市では、チャレンジオフィスあきたにおいて、起業を目指す方の段階に応じたセミナー等を実施しているほか、法人設立や設備投資など起業に係る初期費用をサポートしております。こうした制度の活用促進を通じ、引き続き起業家の創出や成長支援につながる事業を実施してまいります。
6	これだけインバウンドが伸びている中で、外貨を稼ぐという意味でも観光に対して力を入れる必要がある。	本市では、これまで台湾やタイへのトップセールス、秋田港へのクルーズ船の誘致など、県と連携したインバウンド誘客に取り組んでまいりました。一方で、近年は国内の有名観光地や都市部におけるオーバーツーリズムの問題が深刻化していることから、今後は、羽田や成田など国際空港を拠点とした国内周遊型のインバウンドもターゲットとするなど、陸海空の交通結節点を持つ本市の優位性を生かした戦略的かつ効果的な誘客促進に取り組んでまいります。
7	公共交通について、金額を安くしても行きたいところに行ける路線がないと意味がないので、路線も含めて力を入れていくべき。	バス・タクシーの運転士不足に解消の目処が立たない状況において、新規路線の開設などによる対応は難しい状況ではありますが、乗換えを前提とした公共交通網への再編に向けて、エリア交通の導入など段階的に取組を進めているところであります。
8	秋田市内の大学と連携したスタートアップや、様々なスタートアップのエコシステムを検討してほしい。	本市では市内の高等教育機関と連携したセミナーの実施や官民連携ファンドの設置に加え、各起業段階に応じた伴走支援や起業に係る初期費用の補助によりスタートアップを支援しております。また、令和6年度に県が立ち上げ、本市も参加している「AKISTA」を通じ、スタートアップを目指す若者の育成、支援に努めております。引き続き、こうした取組によりスタートアップを支援するとともに、当面は「AKISTA」による産官学金との連携を通じて、持続可能なスタートアップエコシステムの形成に取り組んでまいります。
9	子どもたちに対して、いろいろな仕事があることや、秋田でもできること、また、仕事がなかったら起業するという選択肢もあることを見せてほしいし語ってほしい。	本市では、各小中学校において、地域人材や企業等を活用した施設見学や職場体験活動、講話会を実施し、郷土に根ざしたキャリア教育の充実を図っているところであります。 【令和6年度実績】 ・職場・施設見学：小学校31校、中学校18校 ・職場体験活動：小学校6校、中学校19校  また、高校生向けの起業体験ワークショップや起業に関心を持つ大学生向けの交流イベント等を実施しており、こうした取組を通じ、就職にとられない将来の選択肢の提示、支援に引き続き努めまいります。
10	近年の広告は、企業の宣伝だけではなく、地域の魅力を発信して、地域の活性化や課題解決に繋がるという内容が求められて評価されてきている。市の広報はいつも同じような内容に見えるので、そういう観点で刷新してもう少し新しい市の広報を作っていくと、見る人も増え、いろいろな情報を得る場になるのではないかと思います。	構成力が求められる特集記事などは、市民目線で、内容に興味を持ってもらえるよう、さまざまな広報媒体を参考にしながら、引き続き工夫を凝らしてまいります。

NO.	意見内容	現状・対応案
11	<p>出会いの場を市で設ける時に、デートすることになった際、美容室と提携して、オシャレをして行けるように助成することや、メイクをしてあげたり、洋服を選んであげるなど、そういったサポートを入れると面白いし、参加してみようという若者も増えるのではと思う。</p>	<p>本市では、令和4年、5年に、恋愛や結婚に対して前向きになりたい方などを対象に、「あきた婚活カレッジ」を開催し、新たな自分の魅力を発見していただくため、男性には清潔感、女性には多幸感あふれるメイクなどについてのレッスンを行い、後日男女で立食レッスンを行うなど工夫したイベントを開催しました。募集定員に対して、申込者が少なかったものの、参加者の満足度は高かったため、今回いただいたご意見は、今後の出会いの支援の参考とさせていただきます。</p>
12	<p>全国各地を見ても最近、空き家を使っているいろいろな店を出したり、古いものが多いという若者がそのまま住んだりなど、様々な利活用をされており、そういうところにも力を入れてほしい。</p>	<p>本市では、中心市街地や市内商店街等の空き店舗に出店する方に対し、開業に係る改装費や賃借料等を補助しているほか、資金の融資あっせんを行っており、引き続き、こうした制度により、空き物件の活用を支援してまいります。</p> <p>また、空き家バンク制度や住宅情報ネットワークサイトなどにより、空き家を利活用したい方に対し、情報提供を行っているほか、空き家を購入した移住者等が定住する場合の改修費用を補助しているところです。今後も民間の不動産関係団体等と連携しながら、空き家バンク登録物件の充実を図るとともに、改修費に対する補助事業を引き続き実施してまいります。</p>
13	<p>シニアの方はボランティアなどで力を借りていると思うが、例えば報酬を払ったり、少し金額を高くしてあげると、さらに仕事をする気力が湧くシニアの方がたくさんいると思う。</p>	<p>ボランティア活動は、自主性や無償性によるものが基本であると考えておりますが、ボランティア活動に報酬を支払うことにより、意欲ややりがいの向上につながるという効果があることは認識しております。なお、本市では秋田市社会福祉協議会が窓口となり、ボランティア個人などが加入申込み・被保険者として加入するボランティア活動保険の保険料の一部または全部を市で負担し、ボランティアしやすい環境の整備に努めるとともに、要介護認定を受けていない65歳以上のかたが活動できる秋田市介護支援ボランティア制度を実施し、活動時間に応じて、年間最大5,000円を交付しております。</p> <p>また、（一社）秋田市シルバー人材センターの運営経費等を補助しており、軽易な就労を通じた社会参画により高齢者の健康と生きがい作りを支援しているところです。また、同センターでは、国や市の支援による比較的安価な料金設定により受注件数を確保し、会員の報酬を増やす取組を行っております。</p>
14	<p>スタートアップについて、地方でやりたいという若者は多いと思っており、そこをどうやって秋田で創出していくか、秋田というフィールドをどう活用していくか考えるべき。</p>	<p>本市ではこれまで、段階に応じた伴走支援や起業に係る初期費用の補助により若者の起業を支援しております。今後もこうした支援を行うとともに、秋田に根ざした起業家教育を推進し、学生同士が集い交流する場づくりや県と連携した支援のさらなる充実を検討してまいります。</p>
15	<p>病児保育について、キャンセル待ちなどで、当日の朝8時まで預けられるか預けられないか、仕事に行けるのか行けないのか分からない。これだけデジタルが進んでいる中で、病児保育の予約は電話なので、もう少し進化してほしい。</p>	<p>予約のデジタル化については、利用者のニーズや費用対効果などを考慮する必要がありますが、各施設に対しては、キャンセル待ちの受付時に、現在の予約状況やキャンセル発生の有無をお知らせする時間などについて、より丁寧な説明・対応に努めるよう周知いたしました。</p>

NO.	意見内容	現状・対応案												
16	小さい子どもがいる家庭においては、日々スーパーに買い物に行くだけでも、子どもが店で泣きわめくなどの状況でひと苦勞であり、働く世代向けの移動販売があるといい。	<p>本市では各スーパーが実施する移動販売のほか、通販、ネットスーパーやフードデリバリーが充実している状況であることから、子育て家庭からの相談に対しては各企業で行っているサービスを必要に応じて情報提供してまいります。</p> <p>なお、買い物時の子どもの預かり先として、保育所等での一時預かりや秋田市子ども広場（フォンテAKITA6階）での託児、ファミリー・サポート・センターの活用について、引き続き周知してまいります。</p>												
17	働く世代のケアも考える必要があり、ベビーシッターを利用しやすくなるといい。	ファミリー・サポート・センターにおいて、乳幼児を含めた子どもの預かりに係る調整を行っており、引き続き事業の周知に努めてまいります。												
18	市職員の防災力を上げないといけない。避難情報を出す際もそうだが、担当者が変わることによって初めての避難所という人が多いので、職員の防災力を上げるための実践的な研修を行ってほしい。	本市では、実践的な訓練として秋田市総合防災訓練の中で災害対策本部運営訓練や避難所開設・運営訓練を実施しているほか、現在新たな取組として、全職員を対象とした防災研修の実施を検討するなど、職員の防災力向上に努めております。												
19	他者に雇われて従業員になることだけではなく、アントレプレナー、ビジネスの継業などに自己実現を求める若い方は増えている。ここをまず大事にすることを施策の中に入れてほしい。	創業機運の醸成や、社会にイノベーションを起こせる人材の育成は重要であり、本市では高校生向けの起業体験プログラムや地域課題の解決策を考える学生向けのワークショップ等の開催、事業承継を予定する事業者向けの補助制度等の支援を行っております。今後も自己実現を目指す若者に対し、就職にとらわれない将来の選択肢の提示、支援に努めてまいります。												
20	なぜ市街地にクマが出没するようになったのか、秋田市としての考えを示してほしい。	<p>(現状)</p> <p>全国的に市街地でのクマの出没があり、県内では、冬期間の出没も報告されております。本市では、令和5年に出没件数や捕獲頭数が9月以降の急増により過去最多を記録し、令和6年は、冬期間（2月、11月、12月）に建物での居座りが合計3回ありました。</p> <p style="text-align: right;">単位:頭</p> <table border="1" data-bbox="758 1310 1316 1400"> <thead> <tr> <th>秋田市</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目撃頭数</td> <td>176</td> <td>780</td> <td>347</td> </tr> <tr> <td>捕獲頭数</td> <td>29</td> <td>171</td> <td>33</td> </tr> </tbody> </table> <p>(市の考え)</p> <p>クマの出没が急増した要因としては、人口減少や高齢化とともに人の生活圏が縮小したことや、山林や農地等の手入れが行き届かなくなったことなどが、クマの分布域を拡大し、人とクマの生活空間が近接あるいは重複するようになり、食べものが市街地で容易に確保できたためなどと考えられます。</p>	秋田市	R4	R5	R6	目撃頭数	176	780	347	捕獲頭数	29	171	33
秋田市	R4	R5	R6											
目撃頭数	176	780	347											
捕獲頭数	29	171	33											
21	秋田市の暮らしやすさや良いところを、市民を挙げて外に発信する雰囲気醸成するべきではないか。	秋田市公式インスタグラム写真展で市民からの投稿写真や高校生とともに撮影した写真を展示するなど、市民が自らの住む地域の魅力を発信する事業を行っております。引き続き市民のまちへの誇りと愛着を育むとともに、市民自ら地域の魅力をSNS等で発信し、口コミ等でおすすめする機運の醸成を図ってまいります。												

NO.	意見内容	現状・対応案
22	自分がやっている仕事を受け取った市民側がどう思っているか、市民にどう評価されているかという視点を、市役所職員の仕事の仕方に反映してほしい。	<p>行政の取り扱う業務については、法令やプロセスなどを説明するため、一部分かりにくい表現と捉えられることがあるものと認識しております。今後とも、適正性・公平性等を確保しつつ、わかりやすく丁寧な説明により、市民の気持ちに寄り添った行政サービスの提供に努め、市民満足度の向上を図ってまいります。</p> <p>なお、各種施策や窓口サービスについては、しあわせづくり市民意識調査において評価をいただいております、評価結果を施策等に反映させております。</p> <p>また、市が作成する文書については、庁内の文書事務の手引きにおいてもわかりやすさを意識して作成することとしており、引き続き不断の見直しにより市民理解の向上を図るとともに、市民からわかりにくいとの意見をいただいた際には、その情報を庁内で共有し、市民視点・評価について適時職員意識の共有を図ってまいります。</p>
23	IT系の誘致企業は年に何社も来ているが、1人や2人ではなく、10人とか20人以上最初から秋田に来てもらうような形の誘致してほしい。	IT系企業の進出が進んでいる中、地方拠点の整備を契機とした本社からの異動も実現するなど、Aターンの促進につながっておりますが、本社機能などの移転による大規模な誘致についても鋭意取り組んでまいります。
24	農家としては米の価格よりも、80歳位の人が現役でやっており、地域に若い人がほとんどいない状態で、近い将来にはこのような地域の広大な田んぼを誰が作るのかが大変なことだと思っている。	<p>後継者不足や高齢化による農業従事者の減少により、農地の維持が困難になるとともに、地域の生産活動が低下することが懸念されています。</p> <p>今後、地域との協議により、将来の農地利用のあり方や担い手について明確化するとともに、新規就農者の育成・確保や集落営農の法人化を促進し、意欲ある担い手の確保に努めてまいります。</p> <p>また、ほ場整備やスマート農業による生産性の向上を図り、効率的で持続可能な農業経営の確立を支援してまいります。</p>
25	雇われるよりも自分で事業を起こしたいと思っている学生が多い。大学生が地域に根ざしてスタートアップを目指すことは重要であり、何回失敗してもチャンスを与えるような政策が必要だと思う。	本市では起業に関心を持つ大学生向けの交流イベントや実践的なノウハウを習得できる起業スクール、ビジネスプランコンテストの実施など各段階に応じた伴走支援のほか、法人設立や設備投資など起業に係る初期費用をサポートしております。引き続き、若者がチャレンジしやすい環境づくりを進めてまいります。
26	65歳以上の県民・市民を対象とした生涯学習プログラムを2年間やってきたが、お年寄りはずごく元気であり、この方たちにもう一回、秋田でさらに活躍してもらう場をつくっていくことが重要である。	学習成果の発表の場として、地域におけるイベントや図書館等を活用したり、学習者が講師やボランティアとして主体的に各種学級で活動する機会を提供しているほか、生涯学習講師団名簿への登録を促すなど、活躍する場の提供に努めております。
27	今までの都市計画などの考え方を改める必要があると思う。秋田市に土地が多いことは大きなポテンシャルであり、民間活力を入れながら、それををいかにマネタイズするかが重要である。	<p>民間活力の導入は、厳しい財政状況において重要な手法であると捉えておりますが、土地利用については、市場原理のみでは、無秩序な市街地の拡大による都市の低密度化が進み、一定の人口にささえられる生活サービスの提供や、道路など社会基盤施設の老朽化への対応が困難になることが懸念されます。</p> <p>そのため、本市では、人口減少・少子高齢化の進行を見据え、平成13年に第5次秋田市総合都市計画を策定し、都心・中心市街地と地域中心に生活に必要なサービス機能を誘導し、市民が各地域内で容易にサービスが受けられるよう、多核集約型コンパクトシティの形成を進めており、引き続き、将来にわたり持続可能な都市を目指すこととしております。</p> <p>また、新たに都市計画を定めることで、産業振興に資する工業団地の整備を推進するなど、本市が有する広大な土地や豊富な再生可能エネルギーのポテンシャルを活かした取組も併せて進めております。</p>